

2012年ノーベル医学生理学賞 日本人受賞に関する シニアフェロー田中耕一のコメント

このたびのノーベル医学生理学賞受賞者発表において日本人研究者が受賞されたことについて、2002年化学賞受賞者である田中耕一から 下記の通りコメントを発表させていただきます。

自然科学系ノーベル賞を日本人研究者が同時受賞してから まだ2年しか経っていませんが、早くも新たに日本人が、しかも利根川先生受賞から四半世紀ぶりの医学生理学賞受賞となり、本当におめでとうございます。昨今 日本が自信を失いがちな状況の中、特に日本が得意とする科学・技術の分野から 極めて明るいニュースが舞い込んだ、といえるでしょう。

山中先生は、神戸・大阪・奈良・京都で研究されています。2008年の益川先生・小林先生を含め、また京都にゆかりのある受賞者が増えたということ、同じく京都で研究を続ける私にとって、これもまた喜ばしいことです。

私が子供の頃 日本には、「欧米のマネをすれば、独創的になれる」という空気がありました。京都は、今も日本古来の伝統や文化が息づいています。個人的な意見ですが、「独創とは 人と違う考えを用いて創造する」ことであり、「欧米とは異なる取り組み方・環境で研究することが 独創を生み出す」そういった可能性をもっと追求して良いのでは、と 最近 思えるようになりました。

今回の受賞が、「日本の環境や考え方を活かし、世界に貢献できることが沢山ある」ことを再認識する、日本が自信を持って再び前進する契機になれば、受賞の意義がさらに増すと思えます。

山中先生は、日頃 ご自身の研究成果を「一刻も早く医学・薬学へ活かしたい」と仰っています。ノーベル賞設立から現在まで脈々と受け継がれている根幹の精神に呼応する考え方と思います。「創薬・診断への貢献」を目指す最先端研究開発支援FIRSTプログラムを進行中の私も、今回の山中先生の受賞に勇気を得て、更に貢献できるよう頑張りたい、と思います。

2012年10月8日（京都にて）

株式会社島津製作所シニアフェロー 田中最先端研究所 所長 田中耕一

以上